

資料 B

2024 年 3 月 31 日

2023 年度 誰でも海を楽しめる環境の創出 事業完了報告書



公益財団法人日本ライフセービング協会

1. 事業概要

1.1 目的

最終目的は、ライフセーバーの介助により、誰でも安心安全に海を楽しめる環境を全国に整備する。中長期目的は、全国のライフセービングクラブで実施されている障がい者を対象とした海辺の活動を取りまとめ、全国展開を図る。

海というフィールドの特性を活かし、既存のジュニアライフセービング教室と連携し、障がいの課題を取り除き、障がいの有無に関わらず、子供から大人まで多くの多様な人々が安全に海を楽しめる環境を整える。

1.2 事業内容と目標、事業成果

2023 年度は、海水浴場等で行われるライフセーバーによる「海辺の体験活動のサポートと評価」、「ライフセーバーによる障がい者を対象とした海辺の体験活動ガイドライン（誰もが海で遊べるための「海辺のノーマライゼーション」に関する手引き）の作成」を行った。各事業内容と目標、事業成果を表 1, 2 に示す。

表 1 海辺の体験活動のサポートと評価の事業内容と目標、事業成果

事業内容	目標	事業成果
時期：2023 年 7 月～9 月 場所：海水浴場 5 ヶ所 （兵庫県，静岡県，山形県，茨城県，神奈川県） 対象者：各海水浴場のライフセービングクラブ 内容： a. ライフセーバーによる海辺の体験活動に対する資器材支援 b. JLA 専門委員による海の体験活動の評価（各地 1 名派遣，計 5 ヶ所）	■ 夏季に 5 ヶ所の海水浴場等で行われるライフセーバーによる海辺の体験活動をサポート（実施に関わる経費，資器材）する。 ■ 参加者数計 50 人以上を目指す。 ■ 参加者の海への関心度上昇，活動満足度 80%以上を目指す。（参加者アンケートにて調査）	■兵庫県アジュール舞子，静岡県下田市外浦，静岡県下田市 SEAPAR 柿崎，山形県マリンビーチパーク鼠ヶ関，茨城県大洗，東京都三宅島伊ヶ谷で行われた 6 ヶ所の海辺の体験活動をサポート。福島いわき市新舞子ヘルスプールでの活動をサポート。〔計 7 会場〕。 ■ 参加者数；計 414 名 兵庫県アジュール舞子 [8]，静岡県下田市外浦 [22]，静岡県下田市 SEAPAR 柿崎 [80]，山形県マリンビーチパーク鼠ヶ関 [175]，茨城県大洗 [119]，東京都三宅島伊ヶ谷 [6]，福島いわき市新舞子 [4]。

		■活動満足度 94 % (アンケート結果, 表 3, 図 1)
--	--	---------------------------------

表 2 ガイドライン作成の事業内容と目標, 事業成果

事業内容	目標	事業成果
<p>時期：2023年5月～2024年3月</p> <p>内容：</p> <p>a. ガイドラインの更新（オンライン会議）計5回</p> <p>b. ガイドラインの公開・配布（全国ライフセービングクラブ、ホームページ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本ライフセービング協会の専門委員を各地の海辺の体験活動に派遣し取りまとめた活動内容及び、5回のオンライン会議を通して「障がい者を対象とした海辺の体験活動ガイドライン」を更新する. ■ ガイドラインには障がい者や障がいに知見がある有識者の意見を取り入れる. ■ ガイドラインは、JLA ウェブサイトで公開するとともに、紙媒体を作成し、ライフセービングクラブに配布する. 	<ul style="list-style-type: none"> ■ JLA 専門委員を兵庫県ジュール舞子、静岡県下田市外浦、静岡県下田市 SEAPAR 柿崎、山形県マリンビーチパーク鼠ヶ関、東京都三宅島伊ヶ谷会場の5箇所に派遣。JLA 専門委員と有識者で構成された会議を3回（3月5日、3月9日、3月19日）開催し、ガイドライン（手引き）を更新〔別添〕. ■ 9名の有識者によってガイドライン（手引き）に専門的知見を取り入れた。 有識者：一般社団法人日本障がい者スイミング協会 酒井泰葉、伊藤卓子、小柳勝義、高柳昭弘、JLA スーパーバイザー 足立正俊、公益財団法人日本パラスポーツ協会認定パラスポーツ医 宮原光興、神戸ライフセービングクラブ古中信也、特別支援学校教員植木将人、児童発達支援学校教員 井高絵蓮. ■ ガイドラインは、JLA ウェブサイトで公開するとともに、JLA のライフセーバー管理システムを通じて、都道府県ライフセービング協会と全国ライフセービングクラブヘデータで配付する.

表3 参加者からのコメント

会場	参加者の声
外浦海水浴場／柿崎海水浴場（静岡県下田市）	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子でも海岸に降りられ海まで進むことができることに感動しました。 ・想像していたよりも、車椅子で沖までいくことができたことが印象に残った。 ・子供もそうだと思いますが、家族（介護者）も海（海水浴）を身近に感じられたのではないのでしょうか。初めて海を体験した人達も、「また海に行きたい。」とってくれたらと思います。 ・行政の協力が必要だと思いますが、この様な取り組みが、他の海岸でも行なわれる様になれば良いと思います。誰もが楽しめる海になるように。
大洗海水浴場（茨城県大洗町）	<ul style="list-style-type: none"> ・今までのランディーズではあまり沖まで行く自信がありませんでしたが、腕のところに浮きがあって普通より沖へ行けました。 ・海はあきらめる場所と決めつけていましたが、今回の体験で海が身近になることができるとてもうれしく感じています。 ・今まで海は怖かったけど、今日を通して海の楽しさを知ることができました。
アジュール舞子海水浴場（兵庫県神戸市）	<ul style="list-style-type: none"> ・今まではだっこで海に行っていたが、子供が成長し体力的に限界だったが、ビーチスターがあるとさらに子供が大きくなっても海水浴を楽しめる。 ・海に入れる車いすがあると知り海に来やすくなった。 ・日時が限られるためずっと置いてほしい。
鼠ヶ関海水浴場（山形県鶴岡市）	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく遊べる場所である反面、危険と隣り合わせなので、楽しく遊ぶためにも命を守るためにやっておく事、知っていなければならい事をしっかりと考えて行動すべき場所だと思いました。 ・子供たちは海が好きなので楽しんでほしいと思う反面、溺れないかと心配してしまうが、ライフセーバーの人達がたくさんいてくれたので安心して海を楽しめた。 ・遠くからながめる事があたり前でした。近くにきれいな海があるのに透明な水を見る事ができない事に残念な気持ちでしたが、この体験であたり前にある海を大切にしないでほしいと思います。 ・海をもっと好きになってほしかったですが、少し海にいる時間が暑すぎてきらいになってきたみたいです。

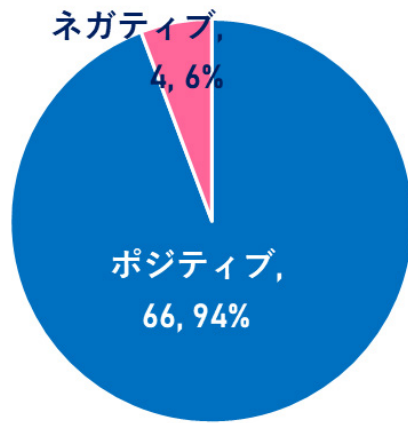


図1 参加者を対象にしたヒアリング調査結果

2. 海辺の体験活動のサポートと評価

2023年度の「誰でも海を楽しめる環境創出事業」では、全国6ヶ所の海岸と1ヶ所のプールの計7会場において、障がい者の方の海辺利用のサポートを行った（図1）。各会場の活動内容と活動評価を表4～10および図2～8に示す。

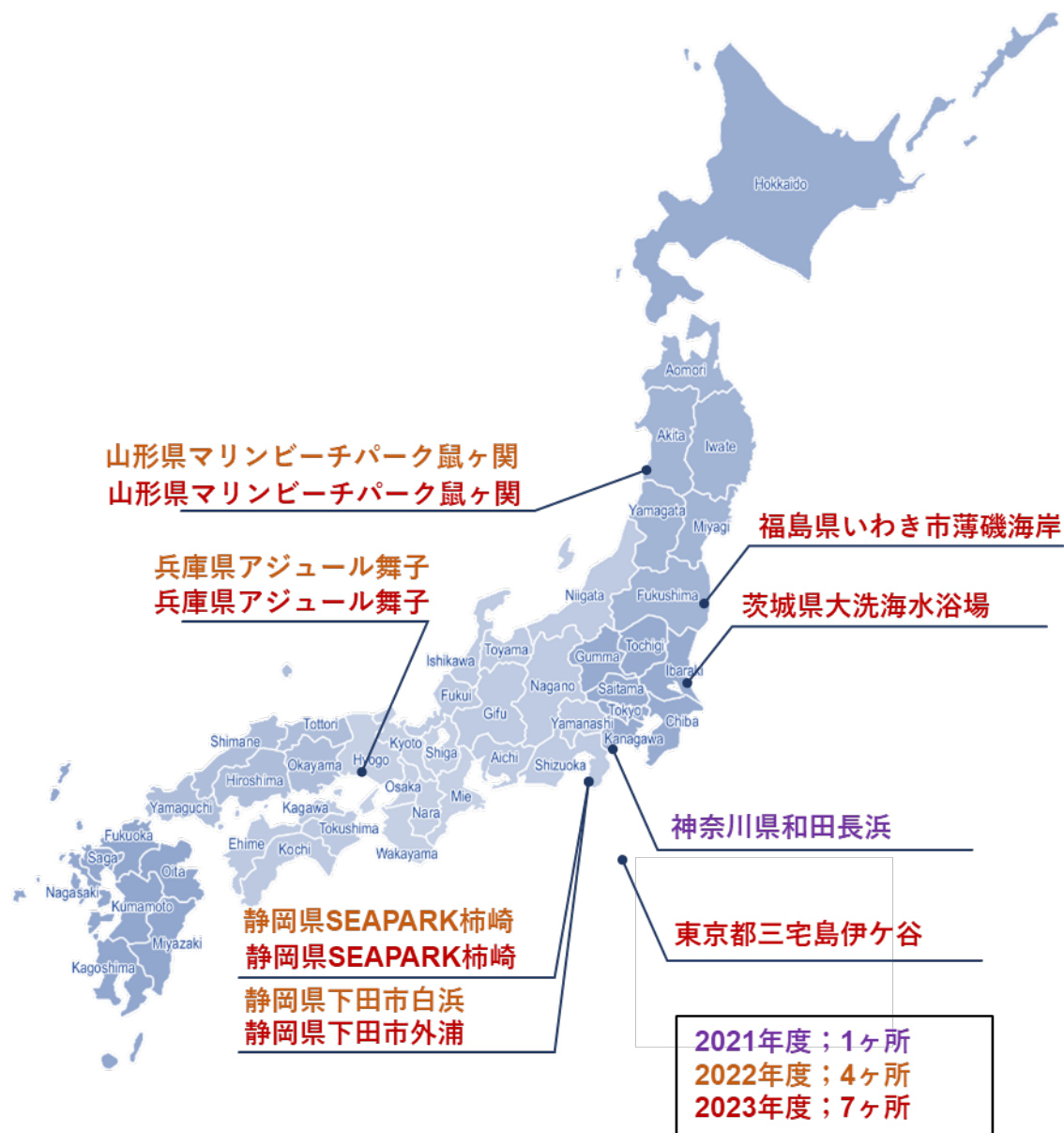


図2 2023年の誰でも海を楽しめる環境創出事業で実施した7会場

表 4 静岡県下田市外浦海水浴場

目的	海という環境のなかで、感受性を育み、表情豊かに社会参加できるように促す。
日時	2023年7月22日（土）10時～15時
場所	静岡県下田市外浦海水浴場
参加人数	障がい者および家族6組 体験会参加11組（22名）、講習会参加 34名
サポートメンバー	ライフセーバー
準備資機材等	ビーチマット、水陸両用車椅子、ライフジャケット
活動内容	体験会参加者には、ビーチマットや水陸両用車イス、ライフジャケット等を用いて、海水浴を楽しんでいただいた。初めて海水浴をする方もいた中、参加者の笑顔があふれ有意義な時間となった。
活動評価（ヒアリング調査）	<p>Q1.今回はどのような体験プログラムが印象に残りましたか？</p> <p>車椅子でも海岸に降りられ海まで進むことができることに感動しました。今回の体験プログラムで、初めて海に入ったという子供もいたと思いますが、楽しそうに海に入る子供達の笑顔が印象に残っています。私の子も、車椅子を使用していますが、砂浜にビーチマットを敷いてくれたことで、容易に波打ち際まで行くことが出来ました（子供を背負って、荷物を運ぶのはとても大変なので…）。楽しい体験をありがとうございました。</p> <p>Q2.今回の体験プログラムを通じて、海をどのように感じていますか？</p> <p>私が中途障がい者なのですがどのような人でも海を楽しめることを知りました。今回は車椅子で海水浴でしたが SUP もできることを知り、海を身近に感じました</p> <p>子供もそうだと思いますが、家族（介助者）も海（海水浴）を身近に感じられたのではないのでしょうか。初めて海を体験した人達も、「また海に行きたい。」と思ってくれたらと思います。身近にこんな綺麗な海があるのですから。</p> <p>Q3.今後に向けてご意見があればご自由にお書き下さい。</p> <p>更衣室も用意されていたのですが 介助者がいる人いない人でベッドの他に椅子や足踏み台を置いたら良いかと思ったりしました</p> <p>行政の協力が必要だと思いますが、この様な取り組みが、他の海岸でも行なわれる様になれば良いと思います。誰もが楽しめる海になるように。</p>



図3 2023年度の静岡県下田市外浦海水浴場での活動の様子

表5 大洗海水浴場（茨城県大洗町）

目的	海という環境のなかで、感受性を育み、表情豊かに社会参加できるように促す。
日時	2023年7月22日（土）～8月20日（日）
場所	大洗海水浴場（茨城県大洗町）
参加人数	水陸両用車椅子の利用者数 合計 119名
サポートメンバー	ライフセーバー
準備資機材等	水陸両用車椅子
活動内容	障がいのある方へ水陸両用車いすの貸出，入水のサポートを実施。
活動評価（ヒアリング調査）	多くの利用者から水陸両用車椅子の貸出要請の声が多く今回の配置は多くの笑顔を引きだせました。本当に助かりました。お世話になりました。今後とも宜しくお願いたします。





図4 2023年度の大洗海水浴場（茨城県大洗町）での活動の様子

表6 静岡県下田市外浦海水浴場

目的	海という環境のなかで、感受性を育み、表情豊かに社会参加できるように促す。
日時	2023年8月20日（日）9時～15時
場所	静岡県下田市開国下田みなと会議室，外浦海水浴場
参加人数	講習会参加者：34名，体験会参加者：障がい者および家族5組
サポートメンバー	ライフセーバー
準備資機材等	ビーチマット，水陸両用車椅子，ライフジャケット
活動内容	ビーチマットや水陸両用車イス等に関する基礎的な知識の習得，演習を行うための講習会を開催。午前は座学を含む講習会，午後には体験会を実施。講習会参加者名9人が引き続き参加し，講習会で学んだことを生かし，障がい者のサポートを行った。視覚障がい者2名のサポートは社会福祉協議会の指導のもと海水浴のサポートを行った。
活動評価（ヒアリング調査）	Q1.今回はどのような体験プログラムが印象に残りましたか？ 想像していたよりも，車椅子で沖までいくことができたことが印象に残った。 講習会では，定員以上の申し込みがあり，下田での実現に向けた良いスタートとなった。 Q2.今回の体験プログラムを通じて，海をどのように感じていますか？ 障害があっても海水浴は誰もが楽しめるものだと思った。 今後，講習会等を通じて，多くの方にユニバーサルビーチについて知ってほしい。



図5 2023年度の静岡県下田市外浦海水浴場での活動の様子

表7 静岡県下田市 SEAPARK 柿崎

目的	海という環境のなかで、感受性を育み、表情豊かに社会参加できるように促す。
日時	2023年8月1日（火）から8月15日（火）
場所	静岡県下田市 SEAPARK 柿崎
参加人数	水陸両用車いす ニッパーボード利用者 80名が参加。障がいのある子どもたちと保護者
サポートメンバー	ライフセーバー
準備資機材等	ライフジャケット、ニッパーボード、レスキューボード、水陸両用車椅子
活動内容	昨年に引き続き SEAPARK 柿崎に資機材を配置し、常設型のバリアフリービーチとして、海水浴客の親水をサポートした。障がいある方へ水陸両用車いすの貸出、ニッパーボード、ライフジャケット、入水のサポートを実施。
活動評価（ヒアリング調査）	<p>Q1.今回はどのような体験プログラムが印象に残りましたか？</p> <p>昨年に引き続き、柿崎海水浴場で機材を配置した。障がい者の利用は少なかったが、健常者が同じ資機材を使用して海を楽しむこともまた、健常者が障がい者と同様の体験を楽しむという意味で意義があるものであった。</p> <p>Q2.今回の体験プログラムを通じて、海をどのように感じていますか？</p> <p>常設型の運営は、イベント型に比べてマンパワーが限られるため、誰がどこまで関与していくか地域として取り組んでいく必要がある。コミュニティ活性化にも繋がる。</p> <p>Q3.今後に向けてご意見があればご自由にお書き下さい。</p> <p>海水浴場への動線を含め、街として取り組んでいく必要性を感じている。</p>



機材配置状況



図6 2023年度の静岡県下田市 SEAPARK 柿崎での活動の様子

表 8 山形県鶴岡市鼠ヶ関旧海水浴場

目的	海という環境のなかで、感受性を育み、表情豊かに社会参加できるように促す。
日時	2023年8月20日（日）
場所	鼠ヶ関旧海水浴場（山形県鶴岡市）
参加人数	175名が参加。障がいのある子どもたちと保護者
サポートメンバー	ライフセーバー（7名）
準備資機材等	ニッパーボード、テント、ライフジャケット、水陸両用車椅子
活動内容	水陸両用車椅子体験、ニッパーボード、レスキューボード体験、ビックスアップ体験、親子シーカヤック体験 その他。
活動評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2023年度もライフジャケット配置数が充実していたので子供たちの視認性向上が図れた。また、各サイズも充実していたので体格にあった安全な浮力体を装着でき安全管理が確実なものとなった。 ・ 水陸両用車の台数が少ないため、利用希望者が渋滞してしまうことがあった。 ・ ニッパーボードは、水になれるツールとして参加者に大人気で、水の上で楽しむ術を伝達できた。





図7 2023年度の山形県鶴岡市鼠ヶ関旧海水浴場での活動の様子

表9 アジュール舞子海水浴場

目的	海という環境のなかで、感受性を育み、表情豊かに社会参加できるように促す。
日時	2023年8月6、7日 土、日曜日 10:00～17:00
場所	アジュール舞子海水浴場
参加人数	障がいのある子どもたち8名が参加
サポートメンバー	ライフセーバー
準備資機材等	ビーチマット、水陸両用車椅子、ライフジャケット
活動内容	水陸両用車椅子やライフジャケットを用いたスイミングサポート。
活動評価	<p>1. 今回全体としての改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビーチマットと水陸両用車椅子の双方運用の必要性 水陸両用車いすを使用し海水浴を楽しむためには、波打ち際までのアクセス手段が必要である。アクセス手段として移乗が不要なビーチマットの設置は必要である。 ・集客方法 家族連れが利用しやすいよう土日の開催としたが、放課後等デイサービスなどの事業所は平日の方が訪れやすいのではという意見があがった。開催日程について検討していく。 またチラシの設置場所についてボランティアセンター、老人ホーム、放課後等デイサービス、アジュール舞子管理事務所に置いた。他にも医療福祉関係の大学や高校、病院など興味を持ってくれそうな方の集まる箇所への設置を進めていく。 ・ライフセーバーの介助者としての教養 入水サポートを行うにあたりライフセーバーから「どのように介助すればいいのか?」「気を付ける点はあるか?」等の不安の声が聞かれ

た。ライフセーバーの不安を取り除くとともに利用者の安全のためにも、入水サポートを行う際の知識・技術の習得は必要不可欠であると感じた。

2. 次回に向けて

・機材レンタル

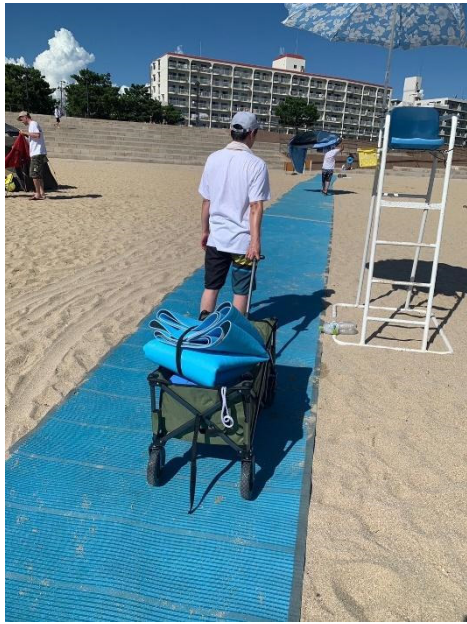
状況に応じて使い分けができるよう各種水陸両用車椅子の用意、ビーチマットの設置が必要である。しかしこれらを所有している海水浴場は少ないのが現状である。そのため必要に応じて様々な種類の水陸両用車椅子およびビーチマットのレンタルが可能な環境を整える必要がある。

・資格制定，人員派遣

ライフセーバーが利用者の海水浴をサポートするにあたり、要介助者に対する知識およびサポート技術が不足しているように感じた。そのため知識として疾患理解や安全かつ恐怖心の少ない入水サポートの方法、万が一のレスキュー方法や留意点、発作や急性増悪時の対応などの講習を行う必要があると感じた。そして講習受講者には資格認定を行い、入水サポート等のイベント実施時は資格取得者を派遣することで、イベント開催者および利用者にも安心して楽しんでいただけると考える。

・ユニバーサルビーチ認証制度

機材があり環境が整っている、先述した資格を持ったライフセーバーが在籍している等の条件を満たした海水浴場をユニバーサルビーチとして認定することで、要介助者は海水浴が可能な浜を探しやすく、安心して訪れることが可能となると考える。



車いすで海水浴！
 ライフセーバーと一緒に海を満喫しませんか？

お手伝いボランティアも募集中！

・身体が不自由な方
 ・高齢者の方
 ・ベビーカーを使用する方etc.
 水陸両用車いす・マットを使って、
 気軽に砂浜まで行けます！
 一緒に海を楽しみませんか？

2023 8.5(Sat) - 6(Sun) @アジュール舞子
 10:00 - 17:00
 雨天：8.19(Sat) - 20(Sun)
 参加費：無料
 連絡先：神戸ライフセービングクラブ
 メールアドレス：kobelifesaving@gmail.com
 主催：NPO法人 神戸ライフセービングクラブ
 協力：NPO法人 須磨ユニバーサルビーチプロジェクト



図8 2023年度のアジュール舞子海水浴場での活動の様子

表 10 伊ヶ谷海水浴場（東京都三宅島三宅村）

目的	海という環境のなかで、感受性を育み、表情豊かに社会参加できるように促す。
日時	2023年8月1日（火）－8月14日（月）
場所	伊ヶ谷海水浴場（東京都三宅島三宅村）
参加人数	障がい児6名＋ライフセーバー及びスタッフ10名 合計16名
サポートメンバー	ライフセーバー及びスタッフ10名
準備資機材等	ニッパーボード、ライフジャケット
活動内容	障がいある方へ、ニッパーボード、ライフジャケットを貸し出して、入水のサポートを実施。
活動評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ ライフジャケットの着用方法を保護者の方含め丁寧に都度説明する必要があった。ライフセーバーがライフジャケットを着用させるのではなく、保護者の方にお子様への着用して頂くよう徹底した。 ・ ニッパーボードでの体重移動次第で水面を自由に移動できる楽しさをうまく伝えることができた。



図 9 2023年度の伊ヶ谷海水浴場（東京都三宅島三宅村）での活動の様子

表 11 福島いわき市新舞子ヘルスプール

目的	海という環境のなかで、感受性を育み、表情豊かに社会参加できるように促す。
日時	2023年11月26日(日)8時～10時
場所	福島いわき市新舞子ヘルスプール
参加人数	視覚障がい者2名、ダウン症2名、健常者3名 子ども3名+ライフセーバー及びスタッフ3名 合計13名
サポートメンバー	ライフセーバー(3名)
準備資機材等	SUP、レスキューボード
活動内容	SUPやレスキューボードの体験会、ウォーターセーフティの実施
活動評価	SUP、レスキューボードを活用し、障がい者の海辺の体験活動を安全にサポートすることができた。

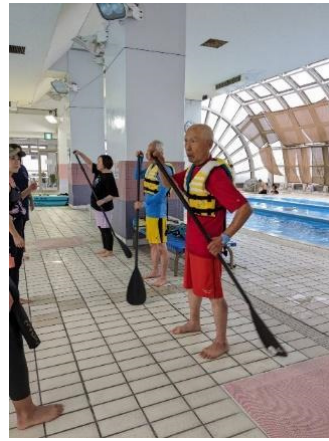


図 10 2023年度の福島いわき市新舞子ヘルスプールでの活動の様子